

教材研究シート

取組みの柱①：教材研究シートの作成・活用

「教材研究が大切」「教材研究が足りない」と分かっているが、どのような視点で教材研究を行えばよいか分らず、教材研究に困ることがある。すると児童につけたい力がぼやけてしまう。

そこで、「教材研究シート」を作成・活用し、全職員が同じ視点で教材研究を行えば、教材研究が深まり、「児童につけたい読みの力」を明確化・焦点化でき、読解力を高めることができるのではないか。

教材解釈

物語文	A：作品の設定	時，場所，人物，構成を整理する。
	B：視点	「だれの視点で書かれているか」や「視点の変化があるか」について特徴的なことを書き出す。
	C：表現技法	「会話文と地の文」，「描写・比喩・擬人法」，「条件的な見方」，「類比・対比」，「繰り返し」，「倒置法」など，観点に沿って書き出す。
	D：中心人物の変化	「〇〇が，～によって，□□になる話」と，一文でまとめる。
	E：主題	中心人物の変化やきっかけからわかる，「作者が作品を通して一番伝えたいこと」や，「題名の意味」を捉える。 * 作品の全体像を図化する。

説明文	A：要点	全段落の要点をまとめ，どの文に注目するとよいかを確かめる。
	B：問いと答え	問いと答えの関係になっている文や段落を見つける。 「全体を貫く問い」「部分のまとまりを表す問い」「隠されている問い」等を見つける。
	C：表現技法	「特徴的な表現」「接続語」「文末表現」「指示語」「図・資料」など，観点に沿って書き出す。
	D：構成	文章構成図にまとめて，構成の特徴や段落相互の関係を整理する。
	E：要旨・意図	「筆者が一番伝えたいことは何か」，「要旨を分かりやすく伝えるために用いている説明の工夫は何か」を明らかにする。

つけたい力

- 1：学習指導要領より分かる単元のねらいを書き出す。
- 2：「読み取らせたい内容」と「つけたい読む力」を表で整理する。
- 3：作品全体を通してつけたい力をまとめる。

単元名「 **生き物は円柱形** 」

1 教材解釈

「A要点」では、全段落の要点をまず指導者がまとめてみる。どの文に注目するとよいか、要点を児童がまとめる時に悩みそうなものはないかを見つける。

<p>A：要点</p> <p>【要点のまとめ方】</p> <p>①段落の中の文の数を数える</p> <p>②中心文を決める</p> <p>③中心文を短くまとめる</p> <p>*形式段落の主語（何が書かれているか）を捉える。</p> <p>【中心文の見つけ方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成から考える 序論→問いの文を探す 本論→事例のまとめの文を探す 結論→まとめの文や主張の文を探す ・順序やまとめ、逆接などの接続語がある文に注目 ・キーワードがある文 ・事実ではなく意見の文 	<p>■各段落の要点</p> <p>はじまり<話題提起=筆者の主張></p> <p>1 生き物は、多様であるとともに、「円柱形である」という共通性がある。</p> <p>中①<生き物は円柱形である説明・例></p> <p>2 人は、うでやあし、首、体全体も円柱形だと見ることができる。</p> <p>3 動物も植物も円柱形である。</p> <p>4 チョウや木の葉は円柱形ではないのではないかな？</p> <p>5 チョウも木の葉も円柱形だということができる。</p> <p>中②<円柱形のよさ></p> <p>6 円柱形だとどんないいことがあるのだろうか？</p> <p>7 新聞紙を立ててみる実験。</p> <p>8 円柱形は強い形なのである。</p> <p>9 円柱形は強だけでなく、速い形でもある。</p> <p>10 円柱形は強くて、速い。</p> <p>おわり<筆者の主張></p> <p>11 生き物の多様さを知るとともに、共通性を見出し、なぜ同じなのかを考えることも実におもしろい。</p>
<p>B：問いと答え</p> <p>問いと答えの関係になっている、文や段落を見つける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体を貫く問い ・部分のまとまりを表す問い ・隠されている問い（逆説、反証、反例に注目） 	<p>■全体を貫く問いはない。</p> <p>→ものごとをどうみるのか=多様さと共通性を見つけることがテーマ</p> <p>■中1（②～⑤）は隠された問い「生き物は本当に円柱形といえるのか」に対する説明になっている。</p> <p>④「チョウは円柱形ではないぞ、木の葉もちがうじゃないか」の答えが⑤に示されている。</p> <p>■⑥「円柱形だとどんないいことがあるのだろうか」の答えが、⑦～⑩である。⑩は⑥の問いのまとめになっている。</p>

「A要点」をもとにして、「B問いと答え」では、問いと答えの関係になっている文や段落を見つける。

「C表現技法」では、まず「特徴的な工夫」を最初を書く。その他の「接続語」や「文末表現」等は、特にこの単元で着目させたいものだけ書く。左の視点と右の解釈が対応するようにまとめる。

C：表現技法

・筆者の特徴的な工夫

■結論先行の書き方

- ・全体で見ると、①にまず筆者の主張を書いている。
- ・⑧⑨など、段落の頭にその段落の要点が書かれている。
- *意見（抽象）を言い、事例（具体）で説明するという書き方

■例外

- ・読者が思うであろう疑問、例外をあげた上で、主張をすることで、説得力をもたせている。
- ～と思うだろうけど、やっぱり・・・という説明の仕方。

■倒置法

- ・「君たちも・・・考えたのではないだろうか。チョウは円柱形ではないぞ、・・・か。」→「君たちも考えたのではないだろうか」と先に投げかけることで、読み人を引き付ける。

・接続語

*関係をつかむ

(逆説、理由、付け加え、言いかえ、順序、一般化等)

■強調

- ・～だろう。しかしよく見ると…逆接による強調

・文末表現

*事実と意見の区別

(強調、理由、推量、問い等)

■読者への呼びかけ

- ・「君の指をみてごらん」

■筆者の考えを表す表現

- ・⑩「実におもしろい」～筆者の思いが現われている。→筆者の主張を探す手掛かりになる。

・指示語

(こそあど等)

■指示語を押さえる

- ・⑩「その多様さを知ることは…」の「その」は何か。「それと同時に」とは何を指すのか。

・図・資料の意味

■挿絵

- ・「生き物が円柱形とみなす」ということがつかみやすいように絵でも表わされている。書かれている文が絵のどの部分を表すかの対応がしやすい。

「D構成」「E要旨・意図」は、図で表す。構成の特徴や、段落相互の関係、筆者が説明をする上で意図していることを、書きだす。

D：構成

- ・序論（はじめ）
…話題提示、問い
本論（中）
…事例
結論（おわり）
…事例の一般化、まとめ、主張
- ・頭括型、尾括型、双括型
- ・文章構成図（形式段落ごとの関係を図にまとめる）

E：要旨・意図

- ・要旨：筆者が一番伝えたいこと
- ・意図：要旨を分かりやすく伝えるために用いている説明の工夫
(例) 問いと答え
事例の工夫
説明の順序
題名の意味

■双括型の文章構成

話題提起＝筆者の主張（問いはない）

- ①生き物は、多様であるとともに、「円柱形である」という共通性がある。

事例の関係、筆者の意図（説明の工夫）

中1 生き物は円柱形である例

- ②人は円柱形である
③動物も植物も円柱形である
④例外はあるのか？
⑤チョウも木の葉も（例外と思われるものも）円柱形である
■例外を挙げ、説得力を強めている

中2 円柱形のよさ

- ⑥（問）円柱形のよさは？
⑦（説明）実験
⑧（説明）答え1：円柱形は強い
⑨（説明）答え2：円柱形は速い
⑩（まとめ）答えのまとめ：円柱形は強くて速い
■中2の中が問いと答えの関係になっている。

まとめ＝筆者の主張

- ⑪生き物の多様さを知るとともに、共通性を見出し、なぜ同じなのかを考えることも実におもしろい。

要旨（筆者のメッセージ）

生き物はたくさんのさまざまな生き物があり、多様である。その多様さを知るとともに、共通性を見つけなぜ同じなのかを考えるという物の見方をするのはおもしろい

- 題名**：生き物は円柱形…読者に「え？なんで？」と思わせる。また、筆者の主張が多様性だけでなく、共通性に目を向けていることに気づかせる手立てになる。

2 単元のねらい

【指導要領より】

C 読むこと

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること

事実（具体）と感想・意見（抽象）との関係を押さえる。

要旨をとらえる →自分の考えを明確にする。

【つきたい力：作品全体を通して“読み取らせたい内容”と“つきたい読む力”】

読み取らせたい内容	つきたい読む力
<p>■各段落の要点</p> <p>■文章構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・双括型文章構成 ・中が2つに分かれている ・中2は、問いと説明、答えの関係になっている <p>■説得の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読者への呼びかけ ・例外 <p>■要旨をまとめる力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・150字程度で要旨をまとめる 	<p>■要点をまとめる力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各段落が何について書かれているかをつかむ。 ・段落ごとに、具体と抽象に着目し、まとめとなる文・キーワードを見つける。 <p>■主張がどこに書かれ、説明がどこにどのようにされているかをつかむ力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段落と段落のつながりに目を向け、要点のつながりを考える。 <p>■例外や呼びかけなど、読者を引き付ける表現の工夫を見つける力</p> <p>■決められた条件で、内容や筆者の考えの中心を捉えまとめる力</p>

<作品全体を通してつきたい力>

具体（事例）と抽象（意見）や段落相互の関係に目を向けながら、文章構成をつかみ、要旨をまとめる力

<授業後の反省>

- ・要約…段落によってはAの文とBの文と、どちらの文が中心文かで意見が分かれた。
「具体と抽象」、「他の段落との関係」を視点にして、どちらの文がよいかを議論させ考えさせる場面設定が必要
- ・要旨…“多様”“共通性”などの言葉の意味があやふやなままで、筆者の主張が捉えきれない児童がいた。「言葉の意味を押さえること」「題名に返ること（生き物は円柱形…これは共通性を指す）」の2点が必要。

「授業後の反省」を書く。授業をしてみてうまくいったこと、うまくいかなかったことを簡単にまとめておく。